

図書館だより

2011
№165

- 拡大読書器をご利用ください P1
- 2010年秋の読書週間 P2~3
- 郷土の文化人 その12 川口 豊 P4

図書館のホームページ <http://www.lib.city.fujisawa.kanagawa.jp/>



拡大読書器をご利用ください

昨夏、日本テレビ系「24時間テレビチャリティー委員会」より、拡大読書器をはじめとする視覚障がい者用機器が総合市民図書館・点字図書館に寄贈されました。



拡大読書器では、印刷物を拡大して表示するほか、黒地に白い文字で表示することもできます。

弱視の方や高齢の方も簡単にご利用できます。

拡大読書器は総合市民図書館・湘南大庭市民図書館にありますので、ぜひご利用ください。

*また市内4図書館では、大きな活字で読みやすい「大活字本」を所蔵しています。

→ → 大活字本の文字の大きさです ← ←

大活字本には、「しゃばけ」畠中恵著(2008年・大活字)や「長崎ぶらぶら節」なかにし礼著(2004年・埼玉福祉会)、「星新一ショートショート遊園地」(2010年・樹立社)、「池波正太郎短篇ベストコレクション」(2008年・リブリオ出版)など、さまざまな作家の本があります。



所蔵については、お気軽に図書館スタッフにお尋ねください。

- 【市民図書館】 総合市民図書館 (Tel.43-1111) 南市民図書館 (Tel.27-1044) 辻堂市民図書館 (Tel.35-0028)
湘南大庭市民図書館 (Tel.86-1666)
- 【市民図書室】 長後 (Tel.43-7655) 明治 (Tel.35-7095) 辻堂 (Tel.35-7076) 村岡 (Tel.28-6939)
片瀬 (Tel.28-6935) 遠藤 (Tel.88-6235) 六会 (Tel.83-4686) 善行 (Tel.83-4687)
藤沢 (Tel.28-6895) 鶴沼 (Tel.35-7096) 御所見 (Tel.48-4675)

総合市民図書館

2010年 秋の読書週間

◆講座「はじめての徒然草」

全3回（10月15日・29日・11月5日）

講師：増淵勝一氏（古典研究誌「並木の里」主宰）



今回も定員を上回る申し込みをいただいた人気の文学講座です。楽しくわかりやすい講義に、「3回で終わるのは残念です」「もっと勉強したい」などの声が多数寄せられました。

◆映像と講演会のつどい（10月31日）

第1部：市民映像上映 第2部：映画「砂の器」上映

第3部：講演会「私の映画人生—撮影監督・川又昂の

人と作品」 講師：川又昂氏（撮影監督）

第1部では市民の方々による映像作品上映、次いで講師の川又氏が撮影監督をつとめた映画「砂の器」を上映しました。講演会は、川又氏と湘南市民メディアネットワーク代表 森康祐氏、総合市民図書館 内藤彰主幹による鼎談で、映画に関する興味深い話をさくことができ、映画会とともに大盛況でした。



◆講演会「新・楽しく大人講座」（11月6日）

講師：菅田哲也氏（作家）



作家の菅田哲也氏を講師に迎え、10代にむけての講演会を行いました。菅田氏の10代の頃のお話や作家になるきっかけ、作品について等々さまざまなお話を伺い、会場からの質問にも多数お答えいただきました。楽しいお話にあっという間の2時間でした。

◆講演会「スペシャルトーク・藤沢と江ノ電」（11月2日）

講師：君塚利啓氏（江ノ島電鉄株式会社社員）



藤沢市制70周年・江ノ電全線開通100周年を記念して“江ノ電の現在までの歴史と藤沢”についてご講演いただきました。参加されている方それぞれが江ノ電に深い思い入れがあるようで、多くの方が熱心に質問されていました。

湘南大庭市民図書館

◆あきのおはなし会（11月3日）

柿・栗・からすうり、紅や黄色の切り紙の葉っぱで飾った秋らしい雰囲気の中、「こぶじいさま」「マーシャとくま」のおはなし、「からすのパンやさん」「かにむかし」の絵本で、おはなしの世界をたっぷり楽しみました。終了後、おもしろかったからもう一度読みたい！と本を借りていきました。



南市民図書館

◆こどもマンガ教室（10月31日・11月7日）

講師：大山哲也氏（漫画家）

先生から道具の使い方を教わり、こどもたちが実際にマンガを描いてみました。作品は後日製本し、すてきな作品集に仕上がりました。



辻堂市民図書館

◆講演会「旧三鶯八郎右衛門家の建物と歴史」

（11月3日）

講師：細井守氏（藤沢市教育委員会生涯学習課）

今回は、羽鳥に現存する「旧三鶯八郎右衛門家」について、写真や、当時の文献を多用し、建物の造りや耕余塾との関係などについてお話いただきました。具体的でわかりやすい解説に、参加者も引き込まれ、地域の歴史をもっと知りたいという声も多く寄せられました。



◆展示「ふじさわ70年！！あの日の頃」

（10月13日～11月28日）

藤沢市教育委員会・文書館の協力を得て、昭和初期から昭和40年代頃までの写真を展示しました。期間中は、マイアミビーチ文庫に寄贈された絵本や東京オリンピックの大会プログラムなど、展示ケース内の様々な関連資料にも多くの図書館利用者が熱心にご覧になっていました。



◆小田原文学散歩（10月29日・11月4日）

講師：島津勝昭氏（文芸評論家）



学習会でのテーマ「小田原ゆかりの文学～作家と作品」にそって、小田原文士ゆかりの地を歩きました。講師の楽しくわかりやすい説明に秋晴れの下、1日散歩を楽しみました。

◆読書週間こどものつどい（10月27日）

50人ほどの親子連れが参加し、大型絵本や大型紙芝居を楽しみました。

かわぐち ゆたか 川口 豊

プロフィール

1953年（昭和28年）神奈川県出身。
東京農業大学農学部造園学科卒。造園家・園芸家。「大庭園草工房」主宰。日本特有の風土や環境、歴史に重きをおきながら、現代の住宅事情や生活スタイルに合わせた庭のプランニング、設計・施工にあたっている。

1999年 NHK趣味悠々「とびっきりガーデニング 自分流AtoZ」出演。2009年 大地の芸術祭出展。2010年 東京インターナショナルフラワー・ガーデンショー出展。藤沢市大庭在住。

「みどりの共有意識」を広めたい

やわらかい日差しにつつまれた秋の午後、藤沢市大庭にある「大庭園草工房」を訪ね、主宰者の川口豊さんにお話を伺いました。

草工房は平成5年6月9日、皇太子ご成婚の日にオープンしました。その頃はイングリッシュガーデンブームの真っ只中で、日本の庭に本格的に花が導入されてきていました。しかしながら、庭いっぱいには花を敷き詰めていくイングリッシュガーデンの手法は、北海道や信州の高原を除くと高温多湿の日本の風土には不向きであったことから、現在は再び和の趣に戻り、モダン和風の時代とか。そのような中、川口さんは珍しいものや新しいものばかりに飛びつくことなく、足元の草花“グランド・カバー”に目を向けて、時間をかけて日々作り上げていく庭をめざしています。

「庭造りは、庭を造り上げた時点ではまだ7割の完成度しかなく、残り3割は庭の育て方次第。植物を育てるのは子育てと同じで、一つ一つの草花の名前を覚えながら、日々の変化に対応していくもの。育て方によって、数年後の庭の様相は全然違う。庭は生きものであって消耗品ではない。だから、気に入らなくなったからと言って簡単に手放さないでほしい。また、垣根を形作っている竹やそこに生えてくる苔な

ど、劣化と見るか変化と見るかによって、庭の楽しみ方は大いに違う。」と川口さんはおっしゃいます。

植物はそれぞれに適した気候、風土、場所で生きています。これら郷土植物の特性を大切にしながら、植物同士の本質的相性を考慮して、日本の各地に“その場所にしかない庭”を造っていくのが、川口さんの夢の一つです。さらに、川口さんは「町に住んでいる人が『みどりの共有意識』を持ち、みんなで町の緑を楽しんでほしい。」「町の緑は町の資質のバロメーターになりうる。個人の利益と公共の利益を考え、そこに住む人たちがおおらかな気持ちで緑豊かな町をつくっていったら」と、熱く語られました。

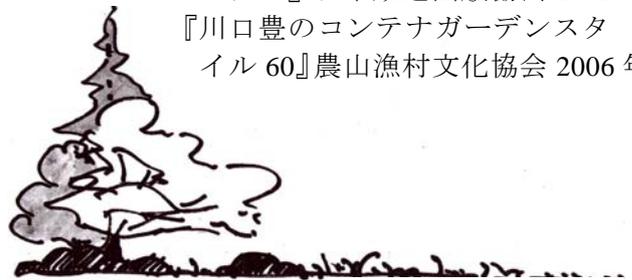
川口さんのお話を心に留めてあらためて足元の小さな草花を見ると、とてもいとおしく感じられました。みなさんも身近な草花の名前を調べてみませんか？図書館には草花の本がたくさんあります。

〔所蔵作品〕

『川口豊のガーデニングレッスン』

山と溪谷社 2000年、『川口豊のエコガーデン』日本放送出版協会 2002年、

『川口豊のコンテナガーデンスタイル 60』農山漁村文化協会 2006年。



イラスト：川口豊氏

編集後記

明けましておめでとうございます。2011年、平成23年、辛卯（しんぼう・かのとう）の幕開けです。

干支のうさぎにあやかり、未来に向かって軽やかに跳ねる年となりますように、心よりお祈り申し上げます。

今年も、皆様のご利用をスタッフ一同お待ちしております。

発行 藤沢市総合市民図書館
藤沢市湘南台 7-18-2
Tel 0466-43-1111